

学校法人 青山学院
2023 年度 事業計画書



Aoyama Gakuin since 1874

目次

「青山学院・新経営宣言」～Be the Difference～	2
「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」～青山学院 150 年への挑戦～	3
学校法人青山学院 中長期計画（2020-2024）	4

各設置学校及び学院の事業計画

I. 国際戦略発展のための AOYAMA VISION「4 Challenges」及び基盤整備	5
1. 世界と未来を拓く教育	6
2. 世界をリードする研究	11
3. 世界が求める社会貢献	13
4. 世界に誇る知的インフラ及び基盤整備	14
II. 新経営宣言の実現	17
1. 万代基金の増強による財政基盤の充実・整備	17
III. その他の事業計画	17

はじめに

未だ警戒が続く新型コロナウイルスの流行や不安定な世界情勢、世界各地で発生する気候変動による災害等、私たちは様々な地球規模の課題に直面しています。今こそ、青山学院が育てる「愛と奉仕の精神をもって すべての人と社会とに対する責任を進んで果たす人間」が社会から求められていると確信し、教育・研究機関としての使命を果たすべく邁進しています。

大学では、2022 年 6 月に、大学の中長期計画をより明確かつ具体的に示した『[青山学院大学 サステナビリティレポート 2022](#)』を発表しました。「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーの育成」（AOYAMA VISION）を通して、持続可能な社会への貢献を目指し、これを実現するための価値創造モデル（抽出した 13 のマテリアリティ（重要課題）と関連したメトリックス（指標/目標））を明らかにしています。他の設置学校においても、それぞれの中長期計画に基づく取組を着実に実行することで、AOYAMA VISION の実現に向けて歩を進めています。

本書では、各設置学校の教育・研究等の取組と、それらを支える学院の取組について、2023 年度の計画を掲載しています。

「青山学院・新経営宣言」 ～Be the Difference～

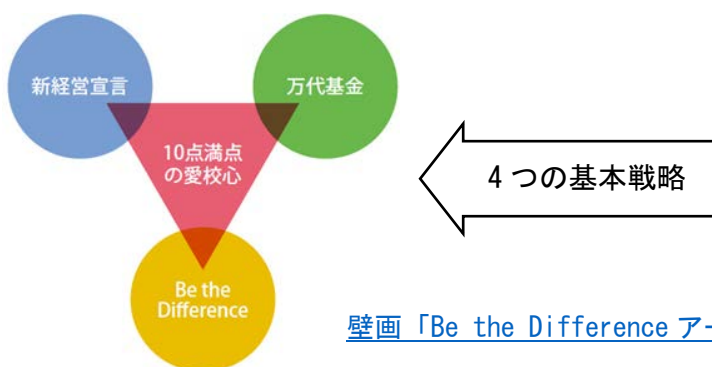
2017 年 11 月に発表した「青山学院・新経営宣言」は、少子化、学校間競争の激化、グローバル化といった学校を取り巻く環境の変化に対応するための経営戦略の基本フレームであり、経営発展モデル構想を示したものです。そして、「Be the Difference」は、「私たちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っています。」（新約聖書 ローマの信徒への手紙第 12 章 6 節）と「あなたがたは、それぞれ賜物を授かっているのですから」「その賜物を用いて互いに仕えなさい。」（新約聖書ペトロの手紙（一）第 4 章 10 節）とから導かれた経営スローガンです。

この経営スローガンは、「地の塩、世の光」というスクール・モットーとともに青山学院を支える価値観であり、学院に係わる一人ひとりの個性や各設置学校の独自性といった多様な価値を尊重し、幼稚園から大学院までを擁する総合学園として、時代と社会が求める世界に羽ばたくサーバント・リーダーの育成を目指すものです。

より良い教育・研究を実践していくには学院の財政基盤の安定が欠かせません。志ある若者の経済支援に心を砕いた ^{まんだいじゅんしろう} 万代順四郎 氏 *1 の遺志を受け継いで、奨学金や質の高い教育・研究を行うための資金を充実させるため、万代順四郎氏の名前を冠した「万代基金 *2」を設立しました。本基金の目標金額は、1,000 億円です。

この「万代基金」を支えるのは、校友、在校生、保護者等の青山学院に係わる全ての方の愛校心です。これらの方々から「10 点満点の愛校心 *3」の評価を頂くに値する、魅力あふれる学院として、青山学院はこれからも成長・発展を続けます。

Bethe Difference®
Each of us can make the world a better place
“世界は一人ひとりの力で変えられる”



[壁画「Be the Difference アート」はこちら](#)

- *1) 青山学院高等科卒業。三井銀行取締役会長、帝国銀行取締役頭取などを務め、戦後はソニー株式会社創立期の取締役会長や日本経済団体連合会常任理事として活躍した。青山学院では理事長・校友会会長などを歴任。
- *2) 万代基金の中に「万代奨学基金」と「万代基本基金」がある。青山学院発展のために、主に万代順四郎氏からいただいたご寄付をもとに発足した「万代奨学基金」の趣旨を発展させるとともに財政基盤の充実を図る目的で「万代基本基金」を新たに設定した。給付型奨学金の充実と教育・研究の質的向上を最重要課題としている。（Ⅱ-1 参照）
- *3) 青山学院に係わる方々へのブランドロイヤリティ（愛校心）調査の指標は、10 点をもって満点としている。

「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」～青山学院 150 年への挑戦～

2017 年 11 月に発表した「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」は、2014 年に策定した AOYAMA VISION の「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園」というヴィジョンはそのままに、150 周年に向けて挑戦する学院の姿勢を示した「4 Challenges」の柱立てに再構成したものです。根底にあるグローバル化推進を継続しつつ、「世界の AGU」を目標に掲げる大学の計画を主軸に、ヴィジョン実現に向けた取組を実行しています。ヴィジョン策定から 5 年の節目を迎えた 2019 年には、「これまで」の実績の振り返りと、今後 5 年間とその先を見据えた「これから」の新たな挑戦や拡充していく取組を掲げ、各設置学校が目指す教育・研究、学校像を提示しました。期間終了まで目前となり、次の未来構想へ発展的につなげていくための取組が始まっています。

Vision 2014-2024

すべての人と社会のために 未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園

今、世界が必要としているのは、自分の使命を見出して進んで人と社会とに仕え、
その生き方が導きとなる人、サーバント・リーダーです。

青山学院が育むサーバント・リーダーは、

リベラルアーツ・
深い専門知識

他者を敬い
違いを受け入れる心

人と社会に
仕える行い

Sincerity
Simplicity

を兼ね備えた人、すなわち「地の塩、世の光」を体現する人物です。

AOYAMA VISION 実現の強い意志を「4 Challenges」に込めて

AOYAMA VISIONは、150周年への更なる飛躍を目指した「青山学院の挑戦」の表明です。

学院の基本使命である「教育」と「研究」、その成果を活かした「社会貢献」、快適かつ最先端の「知的空間の創出」。

これら4つを挑戦の柱に据え、「世界」に羽ばたくサーバント・リーダーを育成するべく、数々のActionを展開していきます。

世界と未来を拓く教育

世界をリードする研究

4

Challenges

世界が求める社会貢献

世界に誇る知的インフラ

Mission

建学の精神

青山学院の教育は、
永久にキリスト教の信仰にもとづいて、
行われる。

教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

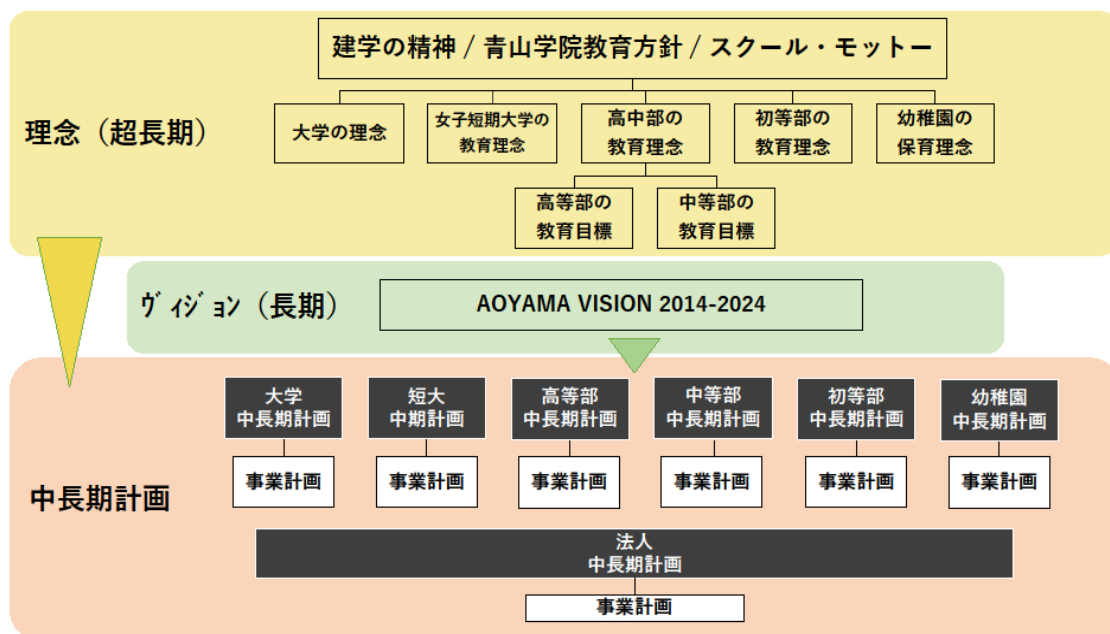
スクール・モットー

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World
(聖書 マタイによる福音書 第5章13-16節より)

学校法人青山学院 中長期計画（2020-2024）

青山学院では、建学の精神に基づいて中長期計画を策定し、それに紐づく事業計画・実行計画を立てて遂行しています。各設置学校がそれぞれの教育理念・目標を活かしつつ、AOYAMA VISION によって学院全体で同じ方向性を持った計画を策定しており、オール青山の精神を体現しています。

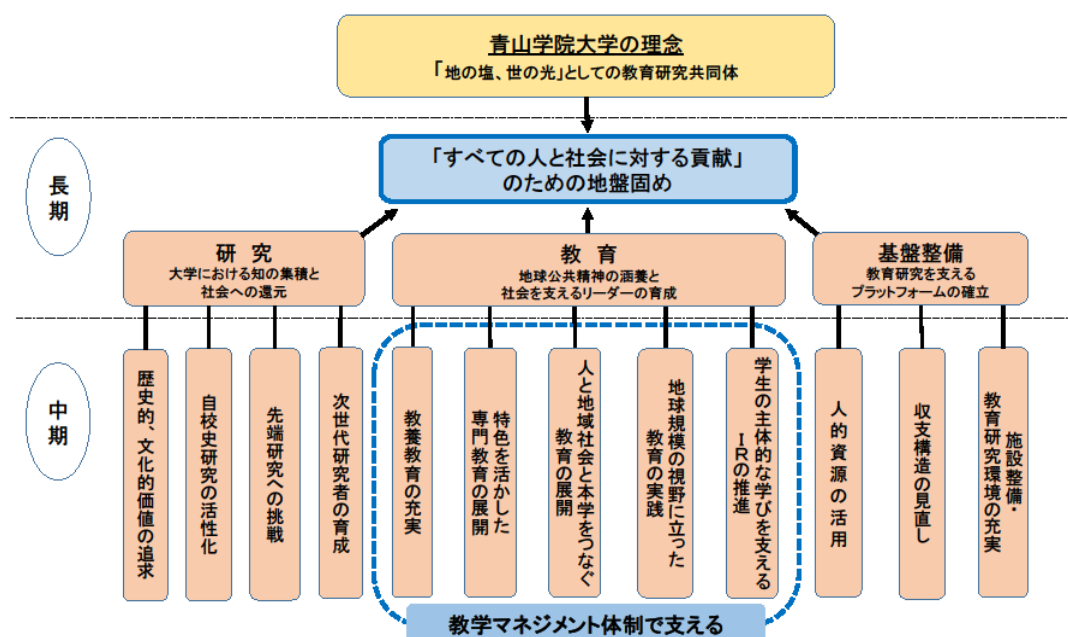
【青山学院中長期計画全体図】



※事業計画は、中長期計画を具体化した単年度の計画です。

※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までを対象とする。

【大学の中長期計画構成図】



各設置学校及び学院の事業計画

I. 国際戦略発展のための AOYAMA VISION「4 Challenges」及び基盤整備

昨今の急速なグローバル化や激変する世界情勢の中にあっても、創立以来変わらぬ本学の建学の精神であるキリスト教信仰に基づく教育と国際教育を実践し、国際社会に貢献できる人間の育成を継続していくために、法人と各設置学校の代表で構成される全学国際戦略推進委員会を設置し、各設置学校の教育理念・目標を活かしつつ、学院全体としての国際戦略を策定し推進しています。

毎年秋に実施している全学的イベント「Aoyama Gakuin Global Week」は、「一人ひとりが国際的な理解を高め、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会のために、より平和、より公正、より持続可能な未来を目指すウィーク」として、青山学院が長年取り組んできた SDGs に関連する活動や教育・研究を推進し、可視化して学内外に広く発信する取組です。2022 年は新たに学生スタッフが組織され、本イベントの学内認知度向上や SDGs の啓蒙を目的とした企画・イベントが学生主体で行われました。

青山学院はこれからも、教育・研究、様々な活動を通して、人に仕え、社会に貢献する国際的なサーバント・リーダーを育成していきます。

[「Aoyama Gakuin Global Week」専用サイトはこちら](#)

1. 世界と未来を拓く教育

大学			
中長期計画		事業計画	
長期	中期		
教育	教養教育の充実	タイトル	全学的な教育基盤の確立と共通教育カリキュラムの再構築
		目的	全学共通教育の目的・機能を再確認し、それを継続的に推進させるための体制・組織を再構築する。2023年度については特に、AI・データサイエンス教育、情報スキル、日本語教育における取組を継続して行う。
		2023年度目標	①データサイエンスとAI教育(DS/AI)のプログラムの充実と各学部での導入の推進 ②「情報スキル1」の見直し作業の推進と2025年度からの新科目への移行準備 ③日本語母語話者向け日本語ライティング教育の充実と交換留学生を含む非母語話者向け日本語教育の見直し作業の推進
	人と地域社会と本学をつなぐ教育の展開	タイトル	地域・社会リエゾン機能の強化:相模原市との地域連携プロジェクト
		目的	相模原市との包括協定に基づき進めてきた連携実績を踏まえ、教育研究活動と地域連携を体系化し発展させていくことを目的とする。また、特に新たに設置する社会連携推進機構(2022年6月設置済)及び社会連携を推進するための事務部署である社会連携課の中核となる取組の立ち上げと推進を図る。
		2023年度目標	2022年度事業計画から引き続き、社会連携推進機構及び社会連携課の相模原キャンパスでの取組の立ち上げと推進を図ることを目標として、①さがまちコンソーシアム参加大学との協力による地域連携プラットフォーム(相模原市・大学間のプラットフォーム)形成、②相模原市との連携企画の「信頼されるスポーツ指導者」研修を発展させた企画の立案、実施を行う。
		タイトル	シビックエンゲージメントセンターの開設と充実
		目的	本学の学生・教職員が、多様化する市民協働事業を通して、サーバント・リーダーとして成長することを目的としたセンターの開設及び充実を目指す。(2022年4月センター開設)
		2023年度目標	①ボランティア活動及び市民協働活動の強化 ②青山スタンダード支援の強化(サービス・ラーニングの授業支援6科目、1講義科目の支援) ③学内外の連携強化(研究会の1回以上の実施) ④研究の推進 ⑤紀要の発行と充実
		タイトル	リカレント教育を推進する組織の設置と充実
		目的	リカレント教育への社会的要請の高まりに応えるため、本学におけるリカレント教育の企画・実施運営並びにこれらに必要な調査研究・情報発信を担う常設の組織を社会連携推進機構内に設置し、その充実を目指す。
		2023年度目標	リカレント教育推進に向けた学内基盤及び諸規則の整備を行う。

大学			
中長期計画		事業計画	
長期	中期		
教育	地球規模の視野に立った教育の実践	タイトル	海外大学からのインターン生受入れ
		目的	海外の大学から本学大学院に入学する学生の獲得を目的とし、理工学部では、これまでにタイのチュラロンコン大学からインターン生を受け入れてきた(2013年度～)。このインターン生は、理工学部の研究室に2ヶ月程度滞在し、実践を通じて学ぶとともに、本学の学生とも交流する。本案件は、このインターン生や短期研究生の受入れを他のアジア諸国や、テキサス工科大学等の欧米の大学に拡大していくためのものである。
		2023年度目標	タイ国と米国の大学から16名のインターン生を受け入れる。
		タイトル	留学生支援体制の整備
		目的	今後の留学生受入れ拡充に向け、留学生支援のための体制整備を行い、支援方針及び中長期計画を策定する。また、支援体制下で行う日本語教育に関するプログラムや外国人留学生受入れ特別枠についても検討を行う。
		2023年度目標	留学生受入れ体制整備の一環として、2023年度は国際化推進委員会の下に置かれた日本語教育に関する小委員会にて、①留学生向け日本語クラスのプログラム実施方針の決定及び②外国人留学生の受入れ特別枠についての検討を行う。
		タイトル	学位取得型留学(ダブルディグリー等)給付奨学金の新設
		目的	現在、大学の中長期計画のマテリアリティ(重要課題)にも挙げられているダブルディグリーの導入であるが、本学においては海外の協定大学の学位取得のために留学する学生に対する奨学制度がなく、学生の負担が過重になっている。海外大学とのダブルディグリー、デュアルディグリー、ジョイントディグリーといったプログラムへの奨学金を新設することで、現在稼働している国際政治経済学部プログラムを安定化させ、全学に学位取得型留学の新設、活性化を促す。
		2023年度目標	国際政治経済学部プログラムにおいて、 ①現在派遣している第3期生(2名)及び2023年度派遣予定の第4期生(2名)に対し、英国ESSEX大学の修士号を取得できるように支援する。 ②第5期生の募集を行い、4名の内定者を出す。
	学生の主体的な学びを支えるIRの推進	タイトル	IR機能の整備
		目的	データに裏付けされた教育課程等の点検・評価を行い、改善・改革・新たな取組を行うため、IR機能を整備する。
		2023年度目標	IR推進室(仮)設置に係る承認を得る。

高等部		
中長期計画	事業計画	
教育改善	タイトル	新カリキュラム策定を通して探究的な学びの推進に向けた高等部授業改革
	目的	2022年度にスタートする新カリキュラムの策定を通じ、高等部の教育プログラム全般の改革を図る。これまでの伝統的な授業から、「探究的な学び」をキーワードに、自ら考え、人と協働し、発信していく主体的な学びを起す授業への転換を図り、青山学院の一貫教育をより有効に活かし得る高等部の教育を模索する。
	2023年度目標	①内部進学制度改革案の策定 ②各教科「育てたい学力観」及びそれに基づく「評価観」の見直し ③各教科観点別評価の実施初年度報告と振り返り ④高等部の「育てたい生徒像」の明文化完成
中部部		
中長期計画	事業計画	
教科教育の充実	タイトル	生徒1人1台タブレットPCの導入
	目的	生徒1人1台タブレットPCを導入することにより、協同学習、情報検索、個々の理解度に応じた演習、実験・実習の記録等を容易に行えるようにし、教科における生徒の理解度を上げ、興味・関心を高める。
	2023年度目標	①2023年度新一年生(77期)の生徒1人に1台ずつタブレットを導入し、運用する。全校生徒がタブレットPCを所持することになるため、授業外での利用範囲を検討する。 ②2024年度以降のプラットフォームを決定する。
	タイトル	オンライン英会話の導入
	目的	生徒に、より多くの英語の発話機会を提供するため、オンライン英会話を導入する。生徒たちが、「英語」を勉強する対象からコミュニケーションの道具として使うもの、という認識に転換する機会を提供する。今回の導入により、英語を話すことへのハードルが下がり、普段の授業の活性化も期待される。
	2023年度目標	3年生を対象に、オンライン英会話の導入を試みる。生徒は、フィリピン人講師による個人レッスンを年30回(1回25分)自宅で受講する。お祈りをするなど、キリスト教教育の要素を取り入れた形式で実施する。
	タイトル	オックスフォード・リーディング・クラブ(オンライン多聴多読システム)の導入
	目的	英語の多聴多読経験を1人1台所有しているPCを使って、学校内外を問わず、自分のレベルに合った好きな本をやさしいものから自由に読みながら音声も同時に聴くことが出来る環境を提供することで、英語を勉強ではなく、楽しむもの、また情報を得る手段として捉えてもらい、尚且つ、英語の読解力と聴解力を向上させることをねらいとする。
	2023年度目標	「オックスフォード・リーディング・クラブ」を導入し、生徒が英語に親しみ、出来るだけ上のレベルに到達出来るよう取り組む。

中等部		
中長期計画	事業計画	
新しい海外プログラムの実施	タイトル	中等部中国訪問プログラムの実施
	目的	現在実施しているオーストラリアホームステイ(夏期)、韓国(梨花女子大付属中)学校訪問、フィリピン訪問の各プログラムに加えて、新たな国際交流プログラムとして、中国訪問プログラムを企画・実施し、生徒に多様なグローバル体験の機会を提供するとともに、学校間の交流の活性化を図る。
	2023年度目標	新たな国際交流プログラムとして、中国訪問プログラムを企画し、実施する。 ※新型コロナウイルスの影響により、2022年度は実施を見合わせ、2023年度に延期。
初等部		
中長期計画	事業計画	
ICT教育の推進	タイトル	プログラミング学習のカリキュラム策定
	目的	プログラミングをツールの1つとして使いこなし、問題を解決できる人材を育てることを目標にした青山学院初等部独自のプログラミング学習(2021年度導入)の3年目のカリキュラムを策定する。
	2023年度目標	4年生以上を対象とするプログラミング学習の6年生用カリキュラムの検討及び実施を行う。また、5年生のカリキュラムの再検討を行う。
	タイトル	青学つくまなラボの活用を通じた新しい学び方の検討
	目的	タブレット学習やプログラミング学習を通して学習の取り組み方が変わってきている初等部において、青学つくまなラボ(青山学院大学 革新技術と社会共創研究所プロジェクト)を活用することで更なる創造的な学習方法を検討する。
	2023年度目標	青学つくまなラボと連携し、コンピュータ学習や専科・クラス・クラブでどのような学習や取組ができるか、活用方法や指導法・単元の開発・検討を行う。
グローバル教育の推進	タイトル	グローバルセミナーの実施による初等部の国際化
	目的	グローバルセミナーを通じ、海外の文化や教育に触れることで教諭の国際化への意識づけを行い、初等部の国際化の取組を推進する。
	2023年度目標	前期・後期において、一度ずつ初等部教諭・非常勤講師を対象にグローバルセミナーを開催する。

幼稚園		
中長期計画	事業計画	
その他	タイトル	幼稚園蔵書絵本の更なる充実
	目的	全ての蔵書を確認し、必要な絵本・図鑑等は購入し、絵本コーナーの環境をより豊かに整える。
	2023年度目標	2024年度の新園舎完成を前に、2023年度内に、保育者と保護者が協力をして蔵書の確認と整理を行う。また必要な絵本・図鑑等を購入し、絵本コーナーを更に充実させる。
学院		
中長期計画	事業計画	
自校史教育の推進	青山学院の歴史は、人と社会に貢献し、弛まぬ奉仕を続けてきたサーバント・リーダーたちの歴史でもある。その歩みを振り返り、志を次世代に引き継ぐため、青山学院大学附置青山学院史研究所における自校史研究や年史編纂の取組の成果を、各設置学校における自校史教育の推進につなげる。	
学校間連携の強化	幼稚園から大学・大学院までを擁する本学院の特性を活かして、支援先の子どもたちと交流する「フィリピン訪問プログラム」に代表される設置学校を横断した全学的な教育活動や、高大連携をはじめとする設置学校間の取組等を一層強化し、発展させる。更に、卒業後も生涯にわたっていつでも青山学院で学ぶことができる社会人向け教育プログラムを充実させ、これらを包括した「青山学院の人生一貫教育」を実現する。	
校友と学院・在校生による連携強化	校友による在校生へのキャリア教育や就職活動支援、学校行事や課外活動のサポート等、各設置学校における教育活動の様々な場面において、本学院を支える存在として校友が活躍している。また、全学的イベント「Aoyama Gakuin Global Week」への校友会の参加、学院から校友に向けた広報紙やメールマガジンによる情報発信の充実等、校友と母校をつなぐ施策も展開している。今後も校友との連携を一層強化し、「オール青山」の絆の結束力をもって、学院の更なる飛躍を目指す。	
グローバルなサーバント・リーダーの育成	学院の国際戦略強化を目的として設置された全学国際戦略推進委員会において、国際化への具体的な取組プロジェクトを吟味し、グローバルな視点でサーバント・リーダーを育成する教育・研究プログラムを学院全体で推進していく。また、大学における協定校の拡充（アフリカ大陸の協定校開拓による地域の多様化、協定内容の拡充強化等）をはじめ、中等部のコミュニケーションスキルとしての英語力向上を目指す新しいプログラムの実施等、各校においてグローバル化の取組を展開し、グローバルなサーバント・リーダー育成を目指す。	

2. 世界をリードする研究

大学			
中長期計画		事業計画	
長期	中期		
研究	自校史研究の活性化	タイトル	自校史研究の活性化(『青山学院一五〇年史』編纂)
		目的	自校史に関する研究機能を強化するため、大学に学院史研究所を設置する。また、同研究所において、これまで青山学院が果たしてきた歴史的役割に関する調査・研究を行い、その成果を発信すること、そして設置学校での授業等に活用することで、本学におけるブランド力の向上及び校友の帰属意識の涵養を目指す。
		2023年度目標	1.青山学院史研究所の主な任務として、『青山学院一五〇年史』編纂事業を展開する。年史編纂事業としては、以下の2点を到達目標とする。 ①『青山学院一五〇年史』通史編Ⅱの刊行準備 ②『写真に見る青山学院150年』の刊行準備 2.「青山学院大学の歴史」等の授業実施・支援を行う。
	先端研究への挑戦	タイトル	本学のSDGs(国連が採択した「持続可能な開発目標」)に対する研究強化への取組
		目的	SDGsと関連する研究を支援することにより、本学の研究面でのレベルを向上させ、教育に還元することにも努め、SDGsに取り組む「世界のAGU」としての認知度を高めていく。
		2023年度目標	①大学webサイトにSDGs関連研究課題を整理して公開する。 ②総合研究所、大学の刊行物にSDGs関連記事を掲載する。 ③SDGsをテーマとするシンポジウムを開催し、対面開催が可能であれば、2022年度以上の動員を図る。 ④SDGs関連研究課題を積極的に募集し、その取組を研究推進につなげる。
		タイトル	ジェロントロジーの学際研究及び教育・啓発事業
		目的	ジェロントロジー研究所でこれまで行ってきた高齢者に関わる諸問題を解決する学際研究・国際共同研究を更に発展させるとともに、ジェロントロジーの教育事業、社会啓発事業を行う。これらの取組を通じて、本学のジェロントロジー分野での存在感を高め、ジェロントロジーに通じる若いサーバント・リーダーの育成につなげる。
		2023年度目標	①青山スタンダード科目「ジェロントロジーと諸科学」を開講し、15回の授業を実施する。 ②プロジェクトメンバーによるジェロントロジー研究及び研究連携を促進し、成果発表等を50件以上行う。 ③活動成果を公開する。

大学			
中長期計画		事業計画	
長期	中期		
研究	先端研究への挑戦	タイトル	ヘルスイノベーション学術ネットワークの基盤形成
		目的	次世代ウェルビーイングプロジェクトで培ってきた医工学をヘルスイノベーションに昇華させるべく、データ収集基盤を強化し、有機的な学際連携を創造することで、ヘルスイノベーションの学術ネットワークを形成する。
		2023年度目標	①プロジェクトメンバーによる研究及び連携を深化させて学術論文等の研究発表成果を50件以上あげる。 ②活動成果を展示として出展する。 ③活動成果を年報として公開する。
		タイトル	体力・健康の維持増進や運動パフォーマンスの向上のための新しい運動処方の研究開発に向けた基盤形成
		目的	「身体運動を介した予防医学的側面」「すべての人に対する新たな運動処方」を研究・発信していくことで、SDGsに掲げられた「すべての人に健康と福祉を」の目標を達成していく。
		2023年度目標	①整備した研究基盤をもとに開発した「誰でも簡単に」「楽しく」「どこでも」「努力せず」体力や運動能力、健康を維持・増進させる方法の仕組みを解明するとともに、病院等と協力しながらより多くの参加者を対象にその効果を確かめる。 ②整備した研究基盤を用いて、大学・大学院の心身の機能に関する演習を充実させる。 ③心身の機能に関する研究ミーティングを様々な人が参加できる形で定期的実施する。
		タイトル	青山学院大学独自の超小型衛星開発拠点の創出
		目的	青山学院大学独自の超小型衛星開発の拠点を設置することを目的とし、総合プロジェクト研究所に外部資金プロジェクト研究所を設置する。衛星開発の様子を積極的に外部へ配信することにより、本プロジェクトが学内だけでなく学外にも広く認知される事が期待される。宇宙開発を通して、宇宙のフロンティアを開拓するという社会的要請に応えることで、世界における本学のプレゼンス向上を図る。
		2023年度目標	①ARICA-2 衛星のエンジニアリングモデル (EM) の開発を完了させ、検証を行う。 ②JAXA 拡充プログラムのフェーズ移行審査を通過し、フライトモデル(FM) 開発をスタートさせる。

3. 世界が求める社会貢献

サービス・ラーニングや社会人教育、地域連携等、本学における教育・研究の取組の多くは、社会貢献につながっています。その中でも、特に社会貢献に大きく関わる事業計画について、本書では以下のページに掲載していますのでご覧ください。

- P.6「地域・社会リエゾン機能の強化：相模原市との地域連携プロジェクト」（大学）
- P.6「シビックエンゲージメントセンターの開設と充実」（大学）
- P.6「リカレント教育を推進する組織の設置と充実」（大学）

【各設置学校におけるサービス・ラーニングに係る取組例】

学院	●幼稚園から大学まで各教育課程を横断するフィリピン訪問プログラム
大学	●日本赤十字社とのボランティア・パートナーシップ協定に基づく活動 ●地方自治体との各種協定に基づくボランティア活動、地域振興支援 ●シビックエンゲージメントセンターによる各種活動（渋谷区におけるこどもテーブル拠点事業、フィリピン・カンボジア等における国際協力、東北地方・熊本県における復興支援活動、ボラサポ制度の運用）及びサービス・ラーニングに関する科目への支援 ●サークル、ゼミ単位での国内外における各種貢献活動 ●青山スタンダード科目「サービス・ラーニングⅠ・Ⅱ・Ⅲ」「サービス・ラーニングとしてのボランティア活動」、「ボランティア・市民協働論」
高等部	●東日本大震災の被災地の学校との交流 ●横浜寿町での炊き出し等支援 ●東ティモール・スタディ・ツアー（ケーススタディと現地調査） ●知的障がい支援施設「えびす青年教室」への訪問、交流 ●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援
中等部	●養護老人ホームでの奉仕活動 ●戦争・自然災害被災者支援募金活動 ●日本聾話学校との相互交流 ●日本キリスト教海外医療協力会（JOCs）の支援（使用済み切手の回収） ●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援
初等部	●滋賀県にある止揚学園への短期留学 ●社会福祉法人鎌倉薫風学園ラファエル会・日本聾話学校への訪問 ●日本キリスト教海外医療協力会支援プログラム（使用済み切手の回収） ●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援
幼稚園	●社会福祉法人愛の泉 愛泉乳児園への支援活動 ●日本キリスト教海外医療協力会支援プログラム（使用済み切手の回収） ●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援

4. 世界に誇る知的インフラ及び基盤整備

大学			
中長期計画		事業計画	
長期	中期		
基盤整備	人的資源の活用	タイトル	職員対象SD (Staff Development) の実施
		目的	「青山学院の求める人材像」に基づき、自らの役割を果たしてその成果を大学に還元できる職員を育成するために、SDを通して社会や組織への貢献度の高い業務や企画等に主体的に取り組む組織の文化や風土を醸成する。業務の効率化を図り余力を生むことで職員の主体性と創造力を育み、組織文化醸成の基盤づくりを目的としたテーマで研修等を実施する。
		2023年度目標	社会や組織への貢献度の高い業務や企画に主体的に取り組む組織文化醸成の基盤となるSD研修を1件以上実施する。
	施設整備・教育研究環境の充実	タイトル	新図書館棟の機能・学習空間の充実
		目的	利用者の学習・研究・教育支援を総合的に実現することを目指し、「学生本位の図書館」という視点に基づく学習空間や支援の提供、本学の教育研究基盤を支える学術資源の拡充、研究活動に資する環境の整備等を具現化するための実行案を作成する。 〈参考〉大学新図書館の建築工事に関する計画は、P.15「大学新図書館棟建築計画」を参照
		2023年度目標	①空間デザインを完成し建築へ反映する。 ②2024年3月末日までに新図書館システムを完成させる。
幼稚園			
中長期計画		事業計画	
自然界の循環を感じる園舎建設・園庭づくり	タイトル	キャンパス再開発 幼稚園新園舎建築	
	目的	キャンパス再開発の計画の中で新園舎を建築し、本園の保育の特徴を活かし、保育のねらいが達成できる、より豊かな環境を整える。	
	2023年度目標	2024年度にかけて、新園舎建設工事を実施する。	

法人：人事に関する計画		
中長期計画	事業計画	
サーバント・リーダーとしての職員の育成	タイトル	AOYAMA VISIONの遂行に基づき、学院の個性を発揮することのできるサーバント・リーダーたる職員の育成
	目的	本学院で学んだ学生等がサーバント・リーダーとして社会で活躍できるように、まず職員自らがサーバント・リーダーとなれるよう育成する。加えて学校職員として、自ら成長し、学院の発展に寄与していけるような人材を、人事部能力開発支援課が実施する研修プログラムを通して育成する。
	2023年度目標	AOYAMA VISIONの遂行に基づき、青山学院の発展に寄与できる人材を育成するため「職員のサーバント・リーダー育成研修プログラム」を実施する。これを土台として学校運営を担う職員に求められる知識やスキルを身につけるとともに、大学SDの取組にも対応した研修を「職員の能力向上プログラム」において行う。また、内製による対象別の研修として「新任職員研修」「メンター・メンティ研修」や「考課者研修」「階層別研修」を実施する。
法人：施設に関する計画		
中長期計画	事業計画	
キャンパス再開発計画	タイトル	大学新図書館棟建築計画
	目的	大学新図書館は、「研究図書館」としての機能を実現したうえで、「学習図書館」としての機能を拡充させ、「学生が学び、育つ図書館」（日本で最も学生が“成長”できる図書館）を目指す。キャンパス生活の“ホーム”として学生が集う仕組みと青山学院ならではの先端的なサービスを備えつつ、学生のニーズと社会の変化に対応していく“進化する”図書館を実現する。 〈参考〉大学新図書館に関する計画は、P.14「新図書館棟の機能・学習空間の充実」にも掲載しています。
	2023年度目標	2023年度は新図書館棟の建物引渡及び付帯設備工事・引越作業を年度内に完了する。
	タイトル	青山学院ミュージアムの開設
	目的	1874年の学院創立以来の様々な歴史を踏まえ、学院が収集・保存する歴史資料の展示を通じて、近代日本におけるキリスト教文化の受容とその歴史的な役割を明らかにし、学院が設置する諸学校の教育に資するとともに、所蔵資料や研究成果を広く公開して、現代社会の文化的発展に寄与することを目的とする。
	2023年度目標	歴史資料館開設準備委員会と展示製作会社にて、青山学院ミュージアムの基本計画の確認、展示の基本設計から実施設計までを行う。

法人：施設に関する計画		
中長期計画	事業計画	
大規模天井改修計画	タイトル	大規模天井落下防止対策
	目的	震災に於いて大規模天井の落下等で甚大な被害が発生したことを起因に、2014年4月に吊天井に対する建築基準法の改正があり、文部科学省から落下防止対策を施すよう通達が出された。これを受けて、学院内の建物に於いて対象となる建物について天井等の改修を順次計画し、本学において安心・安全を確保する。
	2023年度目標	2023年度は1件の天井改修工事（相模原キャンパスN棟エントランスホール）を計画する。

Ⅱ. 新経営宣言の実現

1. 万代基金の増強による財政基盤の充実・整備

法人		
中長期計画	事業計画	
財源確保	タイトル	「万代基金」構想の周知と寄付金大幅増額の実現
	目的	「万代基金」の大幅増額により、「フィナンシャル・エイドの充実」、「教育研究資金の充実」、「財政基盤強化(万代基本基金)」を推進する。
	2023年度目標	「万代基金」の周知と寄付金獲得に向けて、万代基金委員会を運営しながら各種広報・募集活動を実施する。

Ⅲ. その他の事業計画

中等部		
中長期計画	事業計画	
その他	タイトル	中等部創立75周年式典及び記念誌の発行
	目的	中等部の75年を振り返り、これからの中等部の方向性を共有する。
	2023年度目標	①75周年記念誌の発行 ②90年誌に向けてのデータベースの整備
法人		
中長期計画	事業計画	
その他	タイトル	学院創立150周年記念事業の計画策定及び実施
	目的	2024年に学院創立150周年を迎えるにあたり、式典その他の記念事業について、計画を策定し、実施する。
	2023年度目標	学院創立150周年記念事業の全体計画について、創立150周年記念事業委員会は、以下を実行する。 ①実行委員会において纏められた実行計画原案を精査し、実施計画として決定する。 ②広報やブランディングを検討し事業全体の骨幹を定め、主な企画の準備に着手する。2023年度内に実施予定の企画については、順次、実施する。
	タイトル	青山学院未来構想の策定
	目的	2024年11月に迎える学院創立150周年を機に、キリスト教信仰に基づく建学の精神を礎とした新たな青山学院の未来構想を掲げ、学院の更なる飛躍を目指す。未来構想は、数十年の期間で青山学院の未来像・方向性を示す「超長期ヴィジョン」と、超長期ヴィジョンを背景とする160周年までの10年間の「長期目標(AOYAMA VISION 160)」、長期目標達成のための前・後期各5年の「中期計画」の3層構造を想定しており、2021年度に構築した体制・ロードマップに基づき、順に策定していく。
	2023年度目標	①青山学院未来構想の「長期目標(AOYAMA VISION 160)」案を策定する。 ②青山学院未来構想の「中期計画(2025～2029年度)」案の策定に着手する。(2024年5月完成予定)

法人		
中長期計画	事業計画	
その他	タイトル	ポストコロナにおけるキャンパス・ミニストリーの再考・刷新
	目的	学院創立150周年を見据えて、キリスト教活動プログラムの再編・見直し・刷新を行い、新しい時代に向けたキャンパス・ミニストリー・モデルを提示することを目指す。
	2023年度目標	①コロナ禍によって変化した社会や教育環境、学生や生徒らの変容に適応するキリスト教活動の在り方を検証し、新たな展開の道筋をつける。 ②それに伴う教育環境・活動環境の整備を行う。 ③内外へのキリスト教文化の発信と、キリスト教関係諸団体・機関との協力連携体制を強化する。

〈補足事項〉 P.6 から P.18 の表記について

1. 【学院】【法人】

法人執行部及び本部事務部署が行う事業計画については、「教育・研究・学術」に関わる計画を【学院】、「経営・管理」に関わる計画を【法人】と表記しています。

2. 【大学】

大学を構成する各部署・附置機関、大学院、専門職大学院が行う事業計画については、全て【大学】と表記しています。

本書に掲載している計画は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、内容を変更あるいは中止することがあります。

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World
【青山学院スクール・モットー】

学校法人 青山学院 2023 年度事業計画書
2023 年 3 月 23 日 理事会承認 (2023 年 4 月発行)

学校法人 青山学院 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
〈問い合わせ先〉総合企画部 Tel.03-3409-6384
〈学院ウェブサイト〉<http://www.aoyamagakuin.jp/>